



中期経営計画 (2015-2017年度)

数値計画の見直しと追加施策の策定

東急建設株式会社

2016年5月10日

1. 中期経営計画の進捗状況

連結	2015年度 計画		2015年度 実績		2017年度 当初計画	
売上高	2,680億円		2,963億円		2,690億円	
営業利益(率)	80億円	3.0%	181億円	6.1%	95億円	3.5%
経常利益(率)	86億円	3.2%	197億円	6.7%	100億円 以上	3.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益(率)	60億円	2.2%	133億円	4.5%	67億円	2.5%
連結自己資本	—		540億円		580億円	
ROE <small>※期末自己資本による簡便計算</small>	—		24.7%		11.5%	

計画初年度で**最終年度の目標値を前倒して達成**。将来に向けた施策への取り組みをさらに加速

1. 『現場力の強化』による安全・品質・工程・利益の追求

すべての職場において「現場力 = 自ら課題を発見解決する能力」強化に向けた取り組みに着手、改善の仕組みづくりが進む

2. 『選別受注の実践』による現在・将来の利益へのこだわり

想定よりも堅調な市場環境に対し、生産性、利益率重視の取り組みが浸透。将来利益に繋がる分野・顧客への取り組みも順調

3. 『収益多様化』に向けた取り組みの加速

国際事業はバングラデシュへ新規進出も、不動産事業は市況の高騰で賃貸物件の取得が進まず計画未達
国内請負業の繁忙下、将来に向けた収益多様化へのリソースシフトが課題

現状 認識

- 計画初年度において、最終年度の目標値を前倒しで達成
- 計画初年度の業績には、物価の落ち着きと優良顧客を中心とした大型PJの進捗が大きく寄与
- 国内建設市場は想定より堅調に推移し、受注高は増加、受注時の採算性も改善傾向
- 今後の市場環境は、国内景気への不透明感や当期後半の労務逼迫、コスト上昇が懸念材料
- 計画2年目の利益は、前期比で減益予想となるが、中計の最終年度目標を上回る水準
- 計画期間中の利益見通しは、大型工事を含む手持工事が増加、当初計画よりも改善



1. 中期経営計画の目標値を見直し

2. ポスト五輪に向けた新たな施策として『**Shinka×ICT** (シンカバイアイシーティー)』を追加

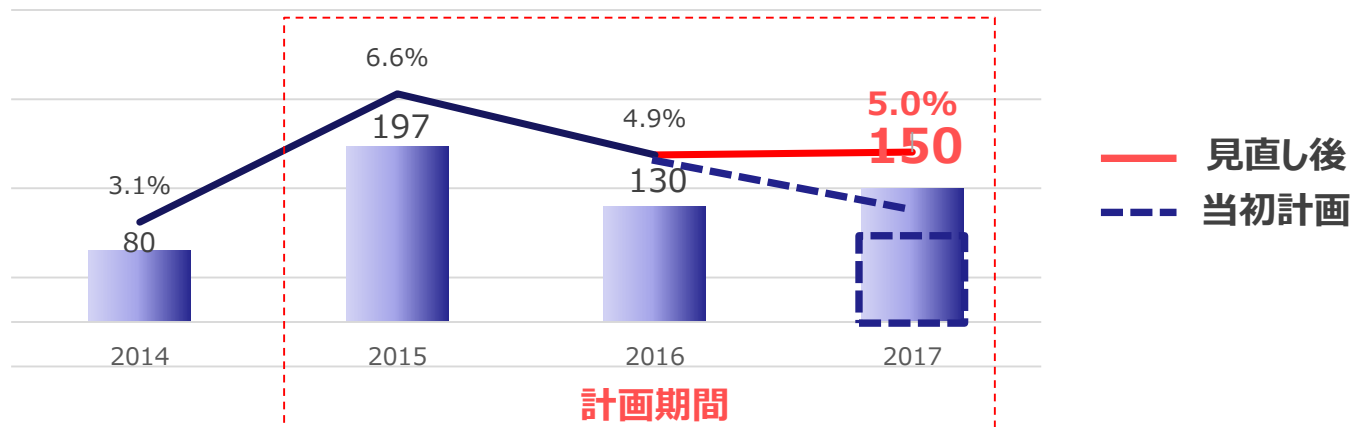
3. 好調な業績を背景に、中計に含まれる将来に向けた施策への取り組みをさらに加速

3. 計画目標値の見直し ①連結

連結	2017年度 当初計画		2017年度 見直し		増減	
売上高	2,690億円		2,990億円		300億円	
営業利益(率)	95億円	3.5%	142億円	4.7%	47億円	1.2P
経常利益(率)	100億円以上	3.7%	150億円以上	5.0%	50億円	1.3P
親会社株主に帰属する 当期純利益(率)	67億円	2.5%	106億円	3.5%	39億円	1.0P
連結自己資本	580億円		690億円		110億円	
ROE※	11.5%		15.3%		3.8P	

※期末自己資本による簡便計算

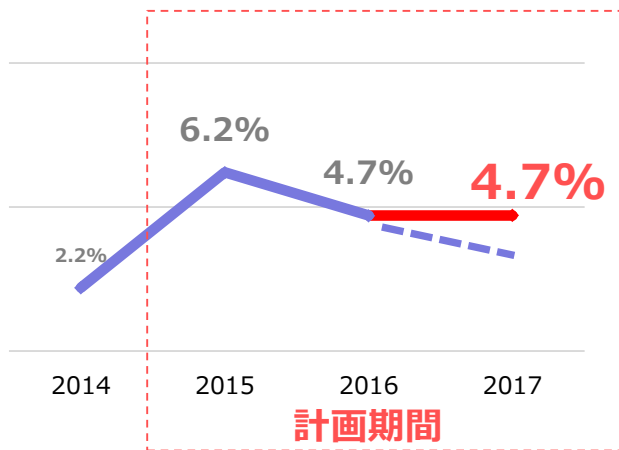
経常利益の推移 (億円)



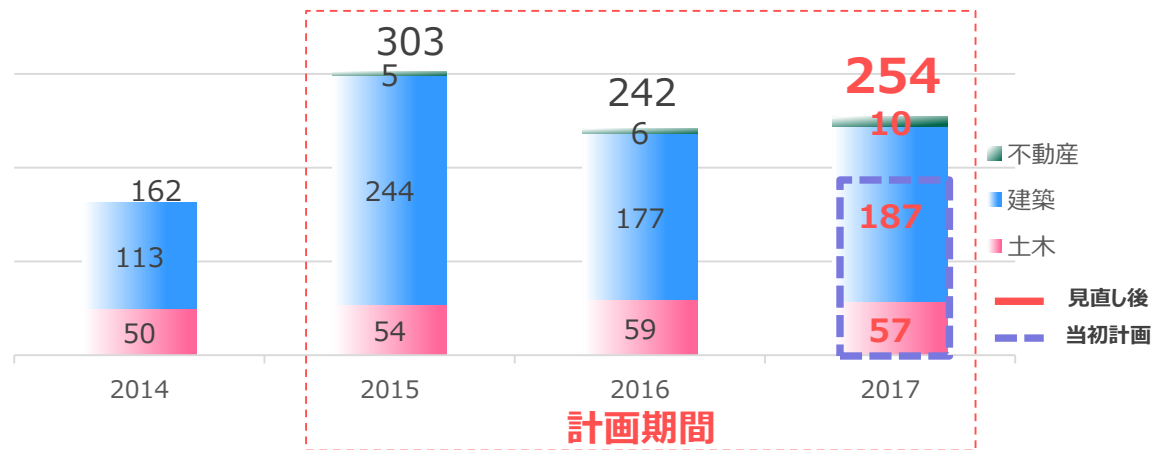
3. 計画目標値の見直し ②個別

個別	2017年度 当初計画		2017年度 見直し		増減	
売上高	2,580億円		2,880億円		300億円	
売上総利益	194億円	7.5%	254億円	8.8%	60億円	1.3P
営業利益(率)	90億円	3.5%以上	136億円	4.7%以上	46億円	1.2P
経常利益(率)	88億円	3.4%	138億円	4.8%	50億円	1.4P
当期純利益(率)	56億円	2.2%	95億円	3.3%	39億円	1.1P
受注高	2,100億円~2,500億円		2,500億円		-	

営業利益率 推移



売上総利益 推移 (億円)



4. 追加施策 (Shinka×ICT)

ICTによる業務プロセスの革新と川上・川下へのバリューチェーン展開により
『Shinka(深化×進化)』し
建物・構造物のライフサイクルを通じて『真価』を提供し続ける

『ICTの積極活用』による新たな価値の提供と業務プロセスの革新

Shinka×ICT

シンカバイアイシーティ

当社は ポスト五輪の主要テーマをICT活用に定め 積極的に経営資源を投入する

IoT
ビッグデータ・AI
ロボティクス

BIM/CIMの展開

- 生産性・安全性の飛躍的向上
- 品質の見える化による信頼性の向上
- 建物・構造物の維持管理効率化・高度化

建物・構造物の
ライフサイクル全体で
価値を提供

ICT活用を加速する「バリューチェーン・プラットフォーム(データ基盤)」を構築

コーポレート/ビジネス両面で、設計・施工から維持管理までのデータ収集・蓄積・連携・統合・分析・活用を行う

コーポレートITの
再構築

- ガバナンスの強化(個別最適⇒全体最適)
- 業務効率の追求

ビジネスチャンスを
最大化



We provide a life of comfort and safety.